

十国峠が国の宝に 十国峠（日金山）を登録記念物に答申

伊豆箱根鉄道株式会社（本社：静岡県三島市、代表取締役社長：中村 仁）がケーブルカーを営業している※十国峠（日金山）山頂が、この度※登録記念物として文化審議会から文部科学大臣に下記のとおり答申されます。

なお、この内容は文化庁より報道規制がされております。報道解禁は2015年11月20日（金）17：00ですのでご注意ください。

※十国峠とは？

十国峠の名前は、昔の国名で「伊豆」「駿河」「遠江」「甲斐」「信濃」「相模」「武蔵」「上総」「下総」「安房」の十の国がここから見渡せたことに由来する。現在の静岡県・山梨県・長野県・神奈川県・東京都・千葉県。晴れ渡った日の十国峠からは富士山や南アルプス、駿河湾はもとより三浦半島や房総半島まで見ることができる。

※登録記念物とは？

文化財として一定の価値は認められるものの評価が定着しておらず、直ちに既存の指定制度（史跡・名勝・天然記念物）による指定を行うことは困難であるが、放置しておくことと消滅等の可能性があるものに対して、平成17年の文化財保護法の改正により、記念物にも登録制度を拡充した。

文化財としての価値を国が認め、積極的な活用を推進するための制度である。



記

1. 答 申 日 2015 年 11 月 20 日（金）

2. 場 所 ○熱海市伊豆山字日金山 1145-2
○熱海市伊豆山字日金山 1145-3
○田方郡函南町桑原字国見嶽 1400-5

3. 登 録 理 由 文化庁から委託を受けた静岡県教育委員会が、富士山の眺望地点の調査を実施したところ、十国峠（日金山）が古来より政治上、宗教上重要な場であるとともに、近世・近代にあつては、富士山を含めた四方八方を眺望する展望地点として広く知られ、多くの絵画等に描かれていることが判明した。そして、その景観や自然環境（地理的環境・植生等）が現在でも良好に保存されていることが文化財として評価された。

4. 歴史的価値 十国峠（日金山）は現在の小田原と三島、韮山を結ぶ街道（江戸時代の根府川通）沿いにあり、古代には伊豆山権現（走湯山）や伊豆国府を結ぶ信仰の道の途上にあつた。鎌倉時代になると、源頼朝や北条氏によって伊豆山権現（現：伊豆山神社）、箱根権現（現：箱根神社）を巡る二所詣《三島明神（現：三島大社）も含め実際は「三所詣」》が政治的、宗教的に重要な行為とされ道が整備された。

5. 芸術作品 古くは信仰の道、そして江戸時代には東海道の裏街道として整備されてきた街道沿いに位置する日金山は、多くの芸術作品に登場する。二所詣の際に詠まれたとされる鎌倉幕府第三代将軍源実朝の「箱根路を わが越えくれば 伊豆の海や 沖の小島に 波の寄る見ゆ（金槐和歌集）」はこの地の代表的作品。

主な芸術作品

- | | |
|----------------------|-------------|
| ○1777 年（安永 6 年）中山高陽 | 「八州勝地図」 |
| ○1833 年（天保 4 年）葛飾北斎 | 「豆州日金山眺望絵巻」 |
| ○1839 年（天保 10 年）大岡雲峰 | 「日金山富嶽眺望図」 |
| ○1878 年（明治 11 年）成島柳北 | 漢詩「澡泉紀遊」十国嶺 |

- 1897年（明治30年）高山樗牛 随筆「わがそでの記」
- 1905年（明治38年）富岡鉄斎 「富士遠望図・寒霞溪図」
- 1908年（明治41年）田山花袋 紀行「函根紀行」
- 1918年（大正7年）田山花袋 「温泉めぐり」
- 1926年（大正15年）徳富蘇峰 随筆「伊豆だより」
- 1927年（昭和2年）前田夕暮 随筆「雑草園」
- 1927年（昭和2年）斎藤茂吉 短歌「十國峠」
- 1932年（昭和7年）与謝野晶子 短歌「山のしづく」
- 1935年（昭和10年）寺田寅彦 随筆「箱根熱海バス紀行」
- 1937年（昭和12年）高村光太郎 詩「晴天に酔ふ」
- 1939年（昭和14年）太宰治 小説「富嶽百景」

6. 告示予定 未定

7. 山頂への交通 十国峠ケーブルカー 営業時間 8:50~16:50 (15分間隔)
 乗車運賃 おとな往復 720円
 こども往復 360円

以上

この報道資料に関するお問合せ等は下記まで

■伊豆箱根鉄道(株)総務部広報課 志村、杉原 TEL: 055-977-0010
 FAX: 055-977-1461